

委託事業実施内容報告書

平成 21 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人埼玉県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

現在、埼玉県には 140 以上の国から約 12 万人の外国人が在住しており、県総人口の 1.7% を占めている。在住地域も県内全域にわたり、市町村総人口の 3%以上が外国人の市町村もある。

こうした状況の中で、日本語支援を必要とする外国人児童生徒も急増している。平成 20 年度に公立小中学校に在学する日本語指導が必要な児童生徒は全国で 28,575 人となり、調査開始以来最も多い数となっている。埼玉県内においては 3,487 人にのぼっている。

一方、各市町村教育委員会にあっては、日本語指導員を学校に派遣するなどの対応に努めているが、十分に対応しきれていない市町村も少なくない。このため、地域の日本語教室に期待される役割は大きいですが、子ども向け日本語教室の開設数は、未だ不十分な状況である。

そのため、教育現場で外国人児童・生徒を指導する現職教員や日本語指導員の方々の資質向上を図るとともに、児童生徒への接し方に造詣の深い退職教員の方々に地域の日本語教室でその経験を生かしていただき、外国人児童生徒の日本語学習の場を広げることを目的とする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時 場所	出席者	議題	会議の概要
5 月 29 日（金） 10:00～12:00 国際協力県民プラザ 交流スペース	酒井 義明 高柳 なな枝 元林 恵子 加藤 恵理子	趣旨説明 今後の予定について 開催日時及び期間について 開催場所について 講座内容の概要について	別紙会議録 参照
6 月 12 日（金） 10:00～12:00 国際協力県民プラザ 交流スペース	酒井 義明 高柳 なな枝 元林 恵子 加藤 恵理子	講座内容の詳細について 講師について	別紙会議録 参照

※3 回目は全講座終了後、メールや電話のやりとりで講座の振り返りを行った。内容については当報告書に反映している。

3 研修講座の内容について

① 研修講座名

「退職・現職教員及び日本語指導員のための外国人児童生徒支援日本語指導者実践講座
子どもの日本語支援の秘訣～学校でも！地域でも！すぐに生かせるコツを学ぼう～」

② 研修の目的

- ・教育現場で外国人児童・生徒を指導する現職教員や日本語指導員の方々の資質向上。
- ・児童生徒への接し方に造詣の深い退職教員の方々に地域でその経験を生かしてもらおう。
- ・外国人児童生徒の日本語学習の場を広げる。

③ 受講者の総数 33 人

(内訳:現職教員 2 人、退職教員 2 人、コミュニケーションアドバイザー等 2 人、
日本語指導員 5 人、地域活動者等 22 人)

④ 開催時間数(回数) 20 時間 (全 5 回)

⑤ 参加対象者の要件

次のいずれかに該当する方を対象とした。

- ・退職及び現職教員
- ・日本語指導員及び、地域で日本語指導員と同様の活動（児童生徒支援）を行っている方
- ・さわやか相談員、学級指導員、スクールカウンセラー及び、同様の活動を行っている方

⑥ 受講者の募集方法

- ・当協会賛助会員への案内送付
- ・当協会機関紙・メールマガジンへの掲載
- ・埼玉県内で日本語支援等を行っている NGO へのメールでの通知
- ・埼玉日本語ネットワークのメーリングリストへの掲載

※講座受講者 募集ちらし(別紙)

⑦ 研修会場

⑧

1 日目、2 日目、4 日目

さいたま共済会館 504 会議室

住 所：さいたま市浦和区岸町 7 丁目 5 番 14 号

電話番号：048-822-3330

3 日目

かわぐち子どものための日本語教室（11月17日・11月24日）

住 所：川口市川口1-1-1

かわぐち市民パートナーステーション キュポ・ラ M4 階 会議室 2・4

電話番号：048-227-7633

戸田・子ども日本語教室（11月20日・11月27日）

住 所：戸田市上戸田1-19-14

戸田市教育センター 2階会議室

電話番号：048-434-5660

5 日目

埼玉教育会館 201 会議室

住 所：さいたま市浦和区高砂 3-12-24

電話番号：048-832-2551

⑨ 使用した教材・リソース

講師作成資料を使用（別紙）

⑩ 講座内容

回	開催日時	講座名 学習内容	講師	受講 者数
1	11月7日（土） 13:30～16:45	1. 支援の必要性 2. 実践的な支援方法 3. つながりづくりの日本語	矢崎満夫 静岡大学教職大学院	33人
2	11月14日（土） 13:30～16:45	4. 教科としての日本語	矢崎満夫 静岡大学教職大学院	33人
3	11月17日・24日（火） かわぐち子どものための 日本語教室 16:00～20:10 11月20日・27日（金） 戸田・子ども日本語教室 16:00～20:10	実習（実地研修） 左のいずれかの日にちに 1日以上参加していただく。	合地仁美 かわぐち子どものた めの日本語教室 大沼知佳子 戸田・子ども日本語教 室	7人 6人 7人 2人

4	11月28日(土) 10:00~16:15	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・教材作り 	高柳なな枝 さいたま市 日本語指導員 田辺理子 地球っ子クラブ2000	19人
5	12月5日(土) 10:00~16:15	<ul style="list-style-type: none"> ・作った教材を使って ロールプレイ ・振り返り ・講評、まとめ 	田辺理子 地球っ子クラブ2000	18人

※詳細については別紙参照

⑪ 特徴的な授業風景

今回の講座では、この講座後、現場に出てすぐに使える教材やアイデアを持ち帰ることができるように、「教材づくり」の時間を設けた。

講義を聴いて、子どもの現状や指導のあり方について学んだことを活かし、教材づくりに臨んだ。実際にどのように指導を展開していくか、どのような教材を用いて教えることが効果的のかなどグループで話し合いながら教材を作成した。グループで話し合うことにより、違う観点から指導法を考えたり、他のグループの発表を聞いて斬新なアイデアを学ぶことができるなど、今後に活かせる具体的な教え方を考えることができた。

⑫ 講座の評価

(1)受講生に対するアンケート 別紙のとおり

(2)実施主体からの研修内容結果評価

講座終了後も受講した現職教員からの問い合わせや、地域の日本語教室で講義内容を参考にするなど反響が大きい講座であったが、参加者が定員に満たず人数に余裕があったことが残念だった。

大人向けの日本語ボランティア講座などには、多くの方が受講を希望するが、埼玉県内では、子ども向けの支援をしようとする人がまだまだ少ないのが現状のようだ。

4 事業に対する評価について

①過去の事業成果の活用

4日目・5日目に講師を担当した地球っ子クラブ2000は平成15年度から18年度に文化庁委嘱事業を受けた団体である(平成15年度から17年度は親子の日本語教室、平成18年度は教材作成)。当協会は当該事業の委員会のメンバーとして関わった団体であった。そこで今回はこ

れまでの委嘱事業の成果を活用する形で講座を開催した。

②教員を志す大学生の参加

特記すべき点は教員の卵である埼玉大学教育学部の学生が多数参加してくれたことだ。将来、教育現場にかかわっていくであろう彼らが、外国人児童生徒の立場や直面する問題点などを学生時代から把握できていることは、とても頼もしい。子どもへの支援は、家族・学校・地域が手を取り合って進めていくことが必要なので、学校現場に外国人児童生徒の心強い味方ができたことは大きな一歩だと言える。

教材作成や講義の際にも彼らのアイデアや発言が全体を活気づけた。

彼らは当協会と埼玉大学とが協働で設置した「多文化共生広場」という、外国人児童生徒の日本語・教科指導を行っている教室で活躍している。早速、その教室で、この講座から学んだことを活かし、子どもたちに接している様子を見聞きしている。

5 今後の課題

今回、地域で子どもの支援をしている方の参加が多く見られた。外国人児童生徒への支援団体同士の横のつながり大切にするためにも、昨年度立ち上げた「日本語を母語としない児童生徒のための日本語学習支援団体連絡会議」の更なる充実の必要性を感じた。

また、県内にはボランティアによる日本語教室が130教室以上あるが、そのうち子ども向け教室は10教室程度にとどまる。子どもたちの日本語が勉強できる場、居場所をひとつでも多く設置できるように県内市町村に働きかけていきたい。

またもう一つの課題は、現職教員の参加があまり見られなかったことだ。子どもが一番長い時間、身を置いているのは学校である。講座開催日を工夫するなどして、今後はより多くの現職教員に参加してもらい、外国人児童生徒の現状や日本語・教科の指導方法など一緒にグループワークや意見交換が行える場を作ることが課題である。